寅さん歩　その 26

東京の主要道路の起点～終点

池上通り－1

平野　武宏

道路名の標識・経路案内標識や標識の数字・その形に興味を持った寅次郎、東京の主要道路を起点から終点まで道路標識を頼りに歩いて、各交差点で交差する道路を学びたいと思い、2021 年 10 月から「不忍通り」、「白山通り」、「春日通り」、「明治通り」、「昭和通り」、「平成通り（番外編）」、「靖国通り（元　大正通り）」、「内堀通り」、「目白通り」、「目黒通り」、「本郷通り」、「世田谷通り」、「江戸通り」、「外堀通り」、「山手通り」、「環二通り」、「外苑東通り」、「外苑西通り」、「永代通り」、「中央通り」、「桜田通り」、「新大橋通り」、「清澄通り」、「日比谷通り」、「新宿通り」、「青山通り」、「玉川通り」、「尾久橋通り」、「尾竹橋通り」、「言問通り」、「墨堤通り」、「多摩堤通り」、「三ツ目通り」、「四ツ目通り」、「早稲田通り」、「浅草通り」、「六本木通り」 と歩いてきました。

今回は「池上通り」を歩きます。池上通りは品川区南品川の第一京浜の青物横丁交差点を起点に、大田区千鳥の環八通りの千鳥三丁目交差点に至る延長約７ｋｍの道です。写真右上は池上通りの道路名標識（都道 421 号線）です。掲載の写真は人や車の密を避けた時間帯に撮影しました（一部は以前の訪問時に撮影したものもあります）。詳細を知りたい方は各道路のホームページをご覧ください。最寄駅は交通機関を利用した場合の代表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

［青物横丁交差点］　品川区南品川五丁目

最寄駅　京急本線　青物横丁駅

池上通りの起点は第一京浜（国道 15 号線）青物横丁交差点です。池上通りは写真下左の青物横丁交差点の歩道橋から直進して進みます。
青物横丁の地名は江戸時代に農民がこの地に青物（当時は野菜・山菜を指した）を持ち寄って市場を開いたことに由来するとのことです。また日本の鉄道駅で唯一駅名に横丁が付くのは青物横丁駅だそうです。

池上通りはすぐに「仙台坂」（写真下左）を上ります。写真下右は歩道橋の上から仙台坂を撮影しました。

［仙台坂交差点］　品川区南品川五丁目

最寄駅　東急大井町線　大井町駅

「仙台坂」とは仙台藩伊達家の下屋敷が坂の左右にあったことに由来するとのことです。かつては現在地より南にあった坂の名でしたが、現在の坂の道幅が拡がり、交通量が多くなったため、坂名を移転したといわれています。

坂上が仙台坂交差点（写真下左）で都道 420 号線と交差します。左へ行くと第一京浜（国道 15 号線）方面、右へ行けば大井町駅（東急大井町線・ＪＲ京浜東北線）方面です。交差点左に伊達藩下屋敷の味噌蔵を起源とする「仙台味噌醸造所」（写真下左右）が残り、営業しています。

［大井陸橋］ 品川区東大井六丁目　　最寄駅　ＪＲ大井町駅

池上通りで車は「大井陸橋」方面に向かいますが、歩行者は左の道を下り、大井陸橋脇の階段から大井陸橋を渡ります（写真下）。

大井陸橋の下はＪＲの線路（写真下左）です。

写真上右は大井陸橋を渡り、下へ降りた所です。前から来る道は仙台坂方面から来る道です。池上通りは左へ進みます。

［大井三ツ又交差点］ 品川区大井四丁目　　最寄駅　ＪＲ大井町駅

大井三ツ又交差点（写真上右）で池上通り（都道 421 号線）は左へ進みます。
写真上左の「光学通り」とはニコン大井製作所があるための道路名です。
「立会道路」とは立会川を暗渠にした道路でソメイヨシノ 154 本の桜並木があるそうです。

［品川歴史館］ 品川区大井六丁目　　最寄駅　ＪＲ大井町駅

池上通り左側にある「品川歴史館」はリニューアル工事中でフェンスに覆われていました。フェンスに工事予定は 2022 年（令和 4 年）7 月 1 日～2024 年（令和 6 年）春頃（予定）と掲示。品川歴史館は郷土資料の保存と活用、区民文化の向上を目的に 1985 年（昭和 60 年）に開館しました。その敷地には、昭和初期に建てられた和風建築の建物「安田善助邸」があり、戦後は吉田秀雄記念館（株式会社電通所有）として茶事などに使用されていました。品川歴史館敷地内には庭園と茶室などを残しています。寅次郎、工事前に訪問していますので、**寅さん歩 396　東京の博物館めぐりー48　品川区―１をご覧ください。**

［鹿嶋神社］ 品川区大井六丁目　　最寄駅　ＪＲ大井町駅

品川歴史館先左側にある「鹿嶋神社」は常陸国　鹿島神社分霊を勧請し、969 年

（伝安 2 年）現在の東大井 6 丁目の地に創建され。1653 年（承応 2 年）現在地に移転した大井村の総鎮守です。古来より相撲が奉納され、江戸郊外の三大相撲（他に渋谷氷川神社、世田谷八幡神社）といわれたとのことです。

［二つの貝塚碑］

「大森貝塚発掘の記念碑」は二ケ所にあります。「大森貝塚」は 1877 年（明治 10 年）6 月 19 日来日したモース博士が横浜からの汽車の窓から発見し、発掘調査を行いました。当時の発掘した正確な場所や遺跡周辺の地図が記されていなかったことや、その後の景観の変化などで分からなくなっていました。
発掘関係者の記憶により 1930 年（昭和 5 年）大田区山王一丁目に「大森貝瓢（かいきょ）碑」が建てられました。
しかし 1977 年（昭和 32 年）モースが発掘の際に地主と交わした文章の中から現在の品川区大井町六丁目の場所と判明し「大森貝塚碑」が建てられました。
1996 年（平成 8 年）品川区とモース誕生の地のアメリカ合衆国メイン州ポートランド市との姉妹都市提携締結で整備され、「大森貝塚遺跡庭園」となりました。
二つの碑はともに国の史跡に指定されています。
寅さん歩 21　東京発祥之地めぐり（学問・文化編 2）及び寅さん歩 396　東京の博物館めぐりー48　品川区―1（こぼれ話）をご覧ください。

［大森遺跡庭園］　品川区大井六丁目　最寄駅　ＪＲ大井町駅

鹿嶋神社の先左側に「大森遺跡庭園」（写真下左）があります。写真下右は園内にある「大森貝塚の碑」です。9 時～17 時には入口の扉が開いていて無料で園内に入れます。池上通りは大森遺跡公園の先から大田区に入ります。

［大森貝瓢碑］　大田区山王一丁目　　最寄駅　ＪＲ大森駅

左側にあるＮＴＴデータ社前に大森貝塚の案内（写真下左）がありました。
写真下右の道を入り、奥の階段を下りると「大森貝瓢碑」があります。

奥まで入らずに見られるように池上通り左側に碑の 1/2 のレプリカ(写真左)が飾られていました。
9 時～17 時までならば写真上右の突き当りの入口の扉が開いていて奥に入り、無料で見ることが出来ます。

［山王口交差点］ 大田区山王一丁目　　最寄駅　ＪＲ大森駅

山王交差点（写真下右）を右へ行くと馬込・環七通り方面です。

［大森駅西口］ 大田区山王二丁目　　最寄駅　ＪＲ大森駅

左側はＪＲ京浜東北線の大森駅西口、右側に天祖神社正面へ行く階段（写真下左）があります。左からも神社に行く階段（写真下右）があり、「馬込文士散策のみち」（写真下右）の説明板がありました。山王・馬込の地には大正末から昭和初期を中心に多くの文士や芸術家たちが住み、いつしか「馬込文士村」と呼ばれるようになりました。尾崎士郎・宇野千代の二人がその中心的な存在でした。

階段の石垣には文士・芸術家たちの顔（写真下左）や彼らの交流の様子（写真下右）が掲示されています。

寅さん歩 391　東京の博物館めぐり―46　大田区―1 をご覧ください。

今回はここまでとします。

［バーチャルウォーク途中経過］

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがＦＷＡホームページ「ＹＲ・四季の道」に掲載されています。　寅次郎、現在はバーチャルウォーク　松尾芭蕉とあるく「奥の細道」に挑戦しています。
全行程約 600 里（約 2400ｋｍ）の長旅なので最後までたどり着けるか心配ですが、目標があれば元気に生きられると強がっています。
2022 年 4 月 26 日、江戸深川（現在の江東区深川）を出発、2023 年 7 月 7 日敦賀・色浜（現在の福井県敦賀市）（江戸深川から　2030ｋｍ）に到着しました。
八柳さんのコースシートには、次の「奥の細道」本文の評釈と俳句の注釈が掲載されています。

次第に白根が岳が隠れて見えなくなり、代わって比那が岳が現れる。歌枕の鶯が関を過ぎ、古戦場の湯尾峠を越えると、義仲の城跡ひうちが城に出る。名月の前の日の 14 日の夕暮れ、敦賀の港について宿をとる。その夜は月が特によく晴れた。「明日の夜もこんなに晴れてくれるだろうか」と言うと、亭主が「この北陸地方の常として、天気が変わりやすいので、明日の名月の夜の曇るか晴れるかは、どうも予想がつきません」と。氣比の明神に夜参りする。氣比の明神は仲哀（ちゅうあい）天皇の御陵。境内は神々しく、神前に白砂がまるで一面に敷いたように見える。その昔、遊行二世の上人が大願を思い立たれることがあって、ご自身で葦を刈り、土や石をにない運び、水たまりのぬかるみも乾かせてより、参拝往来の支障がなくなった。その古例を伝える行事が今でも絶えず、歴代の遊行上人は必ず神前に砂をにない運ばれる。

「これを遊行の砂もちと申します」と亭主が話してくれた。

「月清し　遊行の持てる　砂の上」

（注釈：空は晴れて月の光は清い。二世他阿上人に始まって歴代の遊行上人の持ち運んだと聞く神前の白砂の上にさしている月の光は、ことさらに清らかな感じがする）

15 日、亭主のことばにたがわず、雨が降る。

「名月や　北国日和　定めなき」

（注釈：仲秋の名月。せっかく期待して来たのに、前夜あんなによく晴れていたのが、北国の天気はまったくかわりやすいものだ。雨名月になってしまうとは）

16 日、空が晴れたので、西行上人の古歌に知られる　ますおの小貝を拾おうと、種の浜（いろのはま）に舟を走らせる。浜まで海上七里ある。浜はみすぼらしい漁師の小屋があるだけで、かたわらにさびれた法華寺がある。その寺で茶を飲み、酒を温めなどして雅興を尽くしていると、おりから、古来文人墨客の愛惜してきた秋の夕暮れの寂しさの趣には、何ともいえないものがあった。

「寂しさや　須磨に勝ちたる　浜の秋」

（注釈：この夕暮れの寂しさ。「源氏物語」以来、寂しさの極致とされてきた須磨の秋に比べても、この浜の寂しさは、なお立ちまさっている）

「波の間や　小貝にまじる　萩の塵」

（注釈：さざ波の寄せる浜辺の、波の絶え間に見ると、砂浜の上には西行が歌によんだ　ますおの小貝がいっぱいに散らばっていて、よく見ると、その小貝の間には萩の花塵も散りまじっている）

その日の遊興の概略を等栽に書かせて、この寺に記念に残した。

この後は、関ケ原（現在の岐阜県関ケ原町）へ向かいます。

毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。
ＦＷＡのＨＰ「ＹＲ・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。
また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷して利用ください。

平野　寅次郎　拝